			⑥　各セットピン及びロックピンを作動させて異常の有無を調べる。	⑥　ピンが正常に作動すること。
			⑦　各部の取付け状態を調べる。	⑦　取付け状態が適正であること。
		b　ワイヤロープ	この表の「5.1　ブーム」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
		c　繊維ロープ	①　仕様及び長さの適否を調べる。	①　当該車体の構造及び性能に照らし、適正なロープを使用していること。
			②　ロープの素線切れ、毛羽立ち及び摩耗の有無を調べる。	②　著しい素線切れ、毛羽立ち及び摩耗がないこと。
			③　ロープの外層及び内層の破断の有無並びに乾燥状態を調べる。	③　外層及び内層の破断がなく、かつ、ロープが乾燥していること。
			④　シンブルの亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。	④　亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
			⑤　端末処理の損傷及び糸のほつれの有無を調べる。	⑤　著しい損傷及び糸のほつれがないこと。
			⑥　ロープが確実にドラムへ装着されているか調べる。	⑥　確実に装着されていること。
		d　フック	①　フックの変形及び摩耗の有無を調べる。	①　著しい変形及び摩耗がないこと。
			②　ロープ外れ止めの損傷の有無を調べる。	②　損傷がないこと。
		e　サブブーム	サブブームの亀裂、損傷及び変形の有無を調べる。	亀裂、損傷及び著しい変形がないこと。
	⑵　油圧取出し口		①　カップリングの損傷及び油漏れの有無を調べる。	①　損傷及び油漏れがないこと。
			②　キャップの取付け状態を調べる。	②　取付け状態が適正であること。

6　油圧装置

検査対象の構造及び装置		検　査　方　法	判　定　基　準
6.1 油圧装置	⑴　作動油タンク	①　タンク取付け部及び外周壁面の溶接部並びにカバー、継手、油面計等の接続部からの油漏れの有無を調べる。	①　油漏れ及びエア漏れがないこと。
		加圧式タンクの場合は、作動油タンク（安全弁を含む。）からのエア漏れの有無を調べる。	
		②　機械を水平な場所に置き、油量及び油の汚れの有無を調べる。 ただし、製造者が定める方法によりオイル管理を行っている場合は、油の汚れの有無の確認を省略することができる。	②　油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		③　ブリーザーの目詰まりの有無を調べる。	③　目詰まりがないこと。
		④　ブラケットの取付け状態並びにボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	④　取付け状態が適正で、かつ、ボルト及びナットの緩み及び脱落がないこと。
	⑵　フィルター（サクションフィルター、リターンフィルター、ラインフィルターを含む。）	①　フィルターエレメントを取り出し、汚れ及び損傷の有無を調べる。 ただし、フィルターエレメントについて、製造者が定める方法により定期的に交換されている場合は、この検査を省略することができる。	①　汚れ及び損傷がないこと。
		②　フィルターケース、取付けフランジ、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	②　油漏れがないこと。
	⑶　配管（ホース類、高圧パイプに限る。）	①　亀裂、ひび割れその他損傷、劣化及びねじれの有無を調べる。	①　亀裂、ひび割れその他損傷、劣化及びねじれがないこと。
		②　継手部からの油漏れの有無を調べる。	②　油漏れがないこと。
		③　取付け状態並びにボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③　取付け状態が適正で、かつ、ボルト及びナットの緩み及び脱落がないこと。
	⑷　油圧ポンプ（駆動装置を含む。）	①　パイプ及びホースとの継手部並びにシール部からの油漏れの有無を調べる。	①　油漏れがないこと。
		②　油圧ポンプを作動させ、無負荷及び負荷状態における異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	②　異常振動、異音及び異常発熱がないこと。